

目的別市債償還状況調（平成27年度決算額）

（単位：円）

目的別	平成26年度末 現債額	平成27年度 借入額	平成27年度償還額			平成27年度末 現債額	
			元金	利子	計		
通常債	保健・福祉関連	10,976,504,665	1,776,700,000	1,375,567,602	79,672,391	1,455,239,993	11,377,637,063
	道路・港湾など	36,856,106,937	3,285,900,000	3,742,308,384	472,756,864	4,215,065,248	36,399,698,553
	学校・体育館など	18,091,086,683	1,051,700,000	1,117,891,016	223,187,796	1,341,078,812	18,024,895,667
	会館・美術館など	12,427,600,504	171,500,000	1,637,817,456	140,536,474	1,778,353,930	10,961,283,048
	その他	21,402,483,058	1,864,800,000	1,767,597,834	321,266,996	2,088,864,830	21,499,685,224
	小計	99,753,781,847	8,150,600,000	9,641,182,292	1,237,420,521	10,878,602,813	98,263,199,555
臨時財政対策債等	73,726,172,896	7,045,800,000	4,351,247,434	682,325,288	5,033,572,722	76,420,725,462	
一般会計合計	173,479,954,743	15,196,400,000	13,992,429,726	1,919,745,809	15,912,175,535	174,683,925,017	

なぜ借金をするの？

世代間負担の公平化

学校、道路、公園などの公共施設は、長い期間利用するもののため、整備費用を現在の住民だけが負担することは不公平です。

整備費用を借金で賄って毎年少しずつ返済することで将来利用する住民も費用の一部を負担することになります。

このようにすることで公共施設を利用する人が整備費用を全員で公平に負担することができます。

予算の年度間の調整

公共施設を整備するために、建設費用のすべてを現金一括払いすると、その年度の予算はその建設費用が大部分を占めることになり、その他の必要な行政サービスに支障をきたすこととなります。

そこで、市債を発行し資金を調達し、元利償還金という形で後年度に支出することで、財政負担を平準化することができます。

家計に例えると、マイカーを現金一括で購入すると、まとまったお金が家計からなくなります。そうすると毎月必要な食費や光熱水費を大幅に切り詰めなくてはならなくなり、生活できなくなる場合があります。

このため、マイカーローンを利用し毎月少しずつ返済する方法で購入する方も多いわけですが、市もこれと同じようなことをしています。

横須賀市の借金は増えている？

市の借入金を市債といいます。市債には公共施設など長期にわたって市民の便益となるものを作るときに借りるもの（通常債）と、本来だったら地方交付税として交付を受けるはずの額に足りない（国の交付税が払えない）場合に代替として借入れをする臨時財政対策債等があります。

市債を借り入れたときは歳入に市債として借り入れた額を計上します。

市債を返済するときは、歳出に元金と利子を公債費として計上します。

一般会計の平成27年度末現債額は26年度末と比べて、通常債が約15億円減少し、臨時財政対策債等が約27億円増加したため、約12億円増加しています。

分野別の償還額をみると、臨時財政対策債等の借入に係る償還が一番多く、次いで道路や港湾整備などとなっています。

なお、市債には一般会計のほか特別会計や企業会計で借り入れたものもあります。

一般会計の市債を償還（返済）するときは、主に市税などの財源が使われますが、独立採算である特別会計や企業会計は、法律上、一般会計で負担する部分を除いては、水道料金などの独自の収入で償還（返済）します。

